

「第 22 回国際栄養学会議」開会式 秋篠宮皇嗣妃殿下お言葉（和文仮訳）

令和 4 年 12 月 6 日

本日、第 22 回国際栄養学会議の開会式に、この会場やオンラインで参加されている皆様と共に出席できましたことを、大変うれしく思います。

そして、海外から会議に参加されている皆様を歓迎いたします。日本でのご滞在をぜひお楽しみになりますように。ご滞在中には、和食をその栄養と共に思い出に残る経験としていただきたいと思います。

この会議の母体である国際栄養科学連合は、1946 年以来、栄養学の分野での研究開発を推進し、国際協力を進める上で、非常に重要な役割を果たしてきました。栄養学の分野で力を尽くされ、この会議の準備をしてこられた方々に、心から敬意を表します。また、多くの若い方々がこの会議に積極的に参加されていることを心強く思います。

何をどのように食べるかは私たちの身体と心の健康に影響し、私たちは多くの課題に直面しています。低栄養が子どもたちの発育を阻害し、弱い立場にある人々に、予防や治療が可能な病気による死亡さえも引き起こしています。同時に、過栄養が多くの人の健康を損ない、様々な病気を増加させています。また、微量栄養素の欠乏や摂食障害も、深刻な健康問題を引き起こす可能性があります。そして、貧困や自然災害、紛争、その他の厳しい状況によって苦しみ、よりよい栄養を必要とする人々が存在します。栄養学の研究とその実践が、他の分野との協力により、人々の心身の両面を支援する方法を見つける助けになることを願っています。

日本では、多くの栄養の専門家が科学的な研究や実践、教育に携わってこられました。これらの努力によって、家庭や学校、病院などで、基本的な栄養の知識が共有され、人々の健康な生活が助けられています。しかし、低栄養や過栄養は、急速に増えている高齢者に致命的な疾病を引き起こす可能性があります。また、栄養に関する間違っただけあるいは紛らわしい情報も、人々を好ましくない食習慣に導く可能性があります。このような課題の中で、専門家の方々が健康的な食事の普及に努めておられます。

栄養学によって人々の生活を向上させるために貢献してこられた皆様お一人おひとりに、深く感謝いたします。健康増進と疾病予防のために、皆様の研究や実践の成果が会議で共有され、活発な意見交換がおこなわれることを期待しております。

最後に、本会議が皆様にとって実り多い時間となり、私たちの健康と幸福に向けた行動が世界でさらに進みますようお願い、私の挨拶といたします。